

ビジネスホテルで初の選出！

# 川六グループが経済産業省主催 「DXセレクション2026」 優良事例に選定

西日本でビジネスホテルチェーンを展開する株式会社川六(代表取締役:宝田圭一、本社所在地:香川県高松市)は、2026年5月20日(水)、経済産業省が主催する「DXセレクション2026」最終選考会において、ビジネスホテルグループとして初めて優良事例に選定されました。

## DXを実装した「川六モデル」で経営不振ホテルが3ヶ月で黒字化

「DXセレクション」は、デジタルトランスフォーメーション(DX)に先駆的に取り組み、ビジネスモデルの変革や生産性向上において顕著な成果を上げている中堅・中小企業等の優良事例を発掘・選定し、広く発信することを目的とした経済産業省の事業です。

当社は、「優しさとテクノロジーで地方都市ホテルの新しいスタンダードを創る」というビジョンのもと、全社を挙げて経営・組織・人材を一体としたDXを推進してまいりました。

既存店を「DX実証フィールド」と定義し、経理業務自動化や生成AI(RAG)活用等の高生産性ノウハウを「川六モデル」としてパッケージ化。

これを経営不振の地方都市ホテルへ即時実装することで、わずか3ヶ月で黒字化する「高速事業再生」を実現し、労働人口減少下の地方経済に新たな持続可能モデルを構築しています。

今回、この取り組みが高く評価され、最終選考に選出され、ビジネスホテルグループとして初めて優良事例に選定されました。

### 【会社概要】株式会社川六／川六グループ

1877年創業。高松の老舗旅館として後続御用達を賜るほか、著名作家にも愛される。2002年宿泊特化型ビジネスホテルに業態変更(ホテル川六エルステージ高松)。2011年以降は、ホテルの再生事業を本格化させる。グループの総客室は1,265室。楽天トラベルアワードを2012年から14年連続受賞中。なかでもホテル川六エルステージ高松は、Hotel & Ryokan of the Year 2025で全国総合4位(ビジネスホテル最上位)。2023年6月、経済産業省が定める「DX認定事業者」として認定取得(宿泊業で全国2番目)。「全国ワークスタイル変革大賞2025」にてITコーディネータ協会会長賞とFun&Creative賞をW受賞。業績不振のビジネスホテルの再生を得意とし、中四国、九州に出店を加速する。

ホテル川六エルステージ高松／エクストールイン高松／エクストールイン高松中央インター／エクストールイン熊本銀座通／エクストールイン熊本水前寺／エクストールイン西条駅前／エクストールイン山陽小野田厚狭駅前

### 【代表プロフィール】宝田圭一(たからだ・けいいち)



株式会社川六代表取締役

1962年神戸市生まれ。香川大学経済学部卒業後、製薬会社勤務ののち、1989年、川六入社(27歳)。2000年、代表取締役就任。2011年以降は、ホテルの再生事業を本格化させ、熊本市内で2店舗、愛媛県西条市で1店舗、高松市内で1店舗をリニューアルオープン。2017年に山口県山陽小野田市、2019年に高松市に新築オープン。2022年には、高松市内本社敷地内に「新メインタワー」をオープンし(客室数449室)客室数四国一となる。著書は『地域でいちばんピカピカなホテルのすごい仕組み』(あさ出版)など。

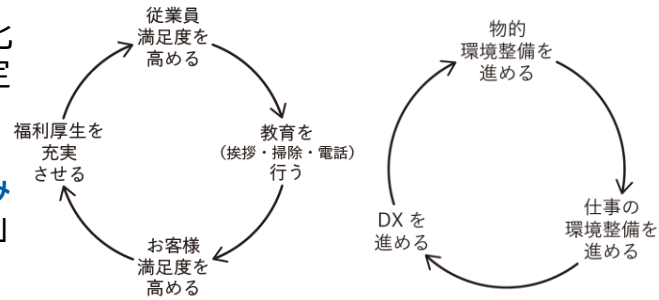
# 経営改善手法「川六モデル」とは

川六は、経営が行き詰まっていた地方都市のビジネスホテルを、次々と立て直してきました。

大規模な建て替えを行うわけでもなく、人を総入れ替えするわけでもない。基本的にはそのままです。それでも、運営の仕方を見直すことで、現場の空気が変わり、組織の動きが変わり、業績が立ち直っていく。この変化は、場当たりの工夫によるものではありません。一定の手順と考え方に基づく、再現性のある経営改善手法です。この「川六モデル」には、2つの軸があります。ひとつが「人の好循環」を回すこと。もうひとつが「仕組みの好循環」を回すことです。そして「仕組みの好循環」の中核を担うのがDXの推進です。

①人の好循環を回す  
=お客様満足度を  
高めるチームをつくる

②仕組みの好循環を回す  
=利益が積み上がる  
構造をつくる



## 業務の自動化で経理はパート社員1名、週3日、完全在宅勤務に

通帳入出金、小口現金、日次売上、月次売上、法人カード管理、給与管理、未払い費用計上、振込データ作成、請求書管理、口座振替まで、経理に関わる業務をシステムで一元化しています。

データは自動で連携されるため、転記や入力といった作業そのものが不要になりました。その結果、売上30億円規模でありながら、経理担当はパート社員1名です。

しかも、働き方は「週3日・完全在宅勤務」です。宿泊業のバックヤード業務ではめずらしい、柔軟な体制が実現しています。

属人的で複雑だった経理処理を、仕組みとして整理し直したことで、少人数・短時間でも回る体制をつくることができました。

経理にかかる人件費を抑えられた分、その原資を現場スタッフの待遇改善や次の設備投資に回すことができます。

## 「KAWARAG」を構築してAXを推進する

川六では、2023年からDXに加え、「AX(AIトランスフォーメーション)」に取り組んでいます。AXは、AIを企業の業務プロセスやビジネスモデル、さらには経営戦略の核として位置づけ、事業全体を根本的に変革する取り組みです。

AX推進の柱が、「RAG」の構築です。生成AIがインターネット上の情報だけで答えるのに対し、RAGはあらかじめ登録した自社データを検索・参照したうえで回答を生成する仕組みです。

川六では社内データをAIに読み込ませて、社員が誰でもすぐに使えるようにするという意味を込めて、「KAWARAG」(川六のRAG)と名付けました。KAWARAGは、過去の事例や蓄積されたノウハウ、現場の声を素早く引き出し、活用するための仕組みです。

過去のトラブル対応データを読み込ませた「支配人AI」は、24時間365日の緊急対応から支配人・副支配人を解放し、同時に現場スタッフの心理的安全性を高める仕組みです。

### KAWARAG活用事例『支配人AI』

